

いのち
生命のにぎわいとつながり

No.66

令和2年6月

新型コロナウイルス流行により、皆様におかれましては、野外に出ることもままならない日々をお過ごしであったことと存じます。しかし、その間にも季節はめぐり、生き物たちは生まれ、育ち、営みを続けています。

今号では、新たに私たちの暮らしの中に近づきつつある特定外来生物の昆虫たちについて特集しています。また、千葉県の外来生物リスト改訂について紹介するとともに、昨年冬に行われた、ミヤコタナゴ保護増殖事業のための、ため池の外来種駆除についても取り上げます。

新たな侵入が危惧される、特定外来生物



左上：ヒアリ 左下：クビアカツヤカミキリ 右上：ツマアカスズメバチ (各写真：環境省提供)

本稿は、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言の中、在宅勤務で執筆しています。このニュースレターが皆さまのお手元に届く頃、事態が収束を迎え、生命のにぎわいを満喫できていることを心から願っています。

コロナウイルスは海外から侵入し、私たちの暮らしに、大きな影響を及ぼしています。しかし、侵入による被害が危惧されるのはウイルスに限りません。これからの季節、活動が活発になり大きな影響を及ぼしかねない、新たな外来種についてとりあげます。

CONTENTS

- 1 新たな侵入が危惧される、特定外来生物 1
- 2 千葉県の外来生物リストが改訂されました 3
- 3 いすみ市峰谷地区のため池の外来種駆除をおこないました 3
- 4 「生命のにぎわい調査団員に聞く！」 3
- 5 千葉県の希少種（シオヤガイ） 4

特定外来生物は、法律で、海外から人の活動により持ち込まれた生物の内、生態系や農林水産業、人の健康に大きな被害を及ぼすおそれのある生物、とされています。

その主な種は、捨てられたり逃げ出した動植物（カミツキガメやアライグマ、水槽由来の水生植物）など、人が意図して持ち込んだものが中心でした。これらを防除し、新たな発生を止めなくてはならないのは言うまでもありません。

これらに加え最近、荷物や人の移動に紛れて、意図せず侵入してくるものが深刻な問題を起こしつつあります。その中心は「紛れる」ことができる昆虫類です。千葉県では現時点で確認されていないものの、いつ現れるか分からない特定外来生物の昆虫を紹介します。

【ヒアリ】*Solenopsis invicta* 南米原産

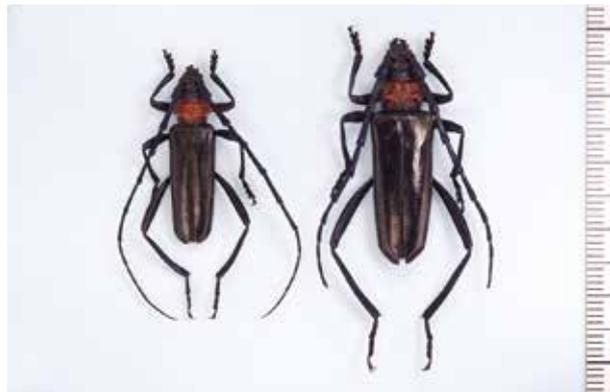
平成29年に兵庫県で初確認されて以降、多くの港湾、倉庫等で見つかっています。攻撃性が強く、刺されると、最悪の場合、アナフィラキシーショックを起こすことがあります。令和元年度に東京港の青海埠頭で多数の有翅女王アリを含む集団が見つかり、周辺への拡散を警戒している状況です。

見分け方は、^{ふくへい}腹柄（胸と腹の接続部分）に2つの節があること、触角の節が10節なこと等がありますが、小さなアリですので確認は困難です。そのため誤報も多く寄せられています。見慣れない、赤く艶やかな体長3~6mmのアリを見かけたら、触らずにご相談ください。



【クビアカツヤカミキリ】*Aromia bungii* 中国、朝鮮半島、ベトナム北部など原産

平成24年に愛知県で確認された後、翌年から関東でも確認が続いています。サクラやウメ・モモといった果樹などを食害する、大型のカミキリです。成虫は体長（胴体のみ）2.5~4cm。幼虫は樹木の中で2~3年を過ごします。幼虫も大きいため、大量のフラス（幼虫のフンと木くずが混ざったもの）が出るのが発見の目安です。また、5月末~8月には、胸部（クビの部分）の赤い大型のカミキリが姿を見せるかもしれません。



標本写真（左♂ 右♀）：環境省提供

【ツマアカスズメバチ】*Vespa velutina* 中国、東南アジア原産

こちらも平成24年に長崎県対馬市で初確認され、九州への上陸が確認されています。関東での確認はありませんが、繁殖力が強く、在来種のスズメバチや餌となる昆虫類の減少、人への刺傷被害が懸念されています。刺された場合、在来種と同様にアナフィラキシーショックを起こす可能性があります。

体長は14~17mm（働きバチ）と、在来種のスズメバチより小型で頭や体全体が黒っぽく、腹部先端（ツマ）が赤褐色、脚先が黄色いのが特徴です。また、在来種より大きな球状の巣を樹上高くに造ることが知られています。



写真：環境省提供

さて、今回紹介したのは、なぜか赤色が特徴的な3種でしたが、次に何が来るのかは分かりません。グローバル化が進み、物流も人の動きも止まらない以上、残念ながら侵入自体を未然に防止するのは不可能です。では、どうしたら私たちの暮らしや、千葉らしい生態系を守れるのか。そのためには、混入してくる生き物を発見し、拡散する前に防除するのが、地道ですが求められている対策です。ただ、そのためには、その生き物を外来種と気づき、どう対処し、どの程度危険なものなのか知っておく必要があります。また、もれなく気づくには、専門家の目だけでなく、いち早く違和感に気づくための、たくさんの目が必要です。どうか皆様の、生き物調査の目をお貸しください。

（小野 知樹 千葉県生物多様性センター）

千葉県の外来生物リストが改訂されました

千葉県には現在、人の手によって外国から持ち込まれたペット動物や園芸植物などの外来生物が多数存在していますが、その中にはアライグマ、キョン、カミツキガメ、ナガエツルノゲイトウ等、県の農林漁業や人体等に被害を及ぼす特定外来生物も含まれています。

千葉県では平成19年頃から外来動物のリストを報告するとともに、平成24年度には動物と植物・菌類を併せた『千葉県の外来生物 初版（平成24（2012）年度）』を刊行しました。これは合計340ページに上る力作でしたが、発行から7年が経過し、情報がやや古くなっていました。また平成25年以降にもセアカゴケグモやオオバナミズキンバイ、さらにはヒアリ、アカカミアリといった危険な外来生物の侵入が次々と報告されていました。

そこで生物多様性センターでは、平成31年4月から『千葉県の外来生物リスト2020年改訂版』の作成を進め、令和2年3月に刊行しました。ここでは上に挙げたセアカゴケグモ等のほか、ブラジルチドメグサ、アサリ近似種、アメリカカンザイシロアリ、コウライギギ、カオグロガビチョウ等の外来種が新たに追加されています。さらに、以上の外来生物を、生態系又は人に及ぼす「影響度」によりA、B、C、Dの4段階カテゴリーで評価しています。

種数に関しては、本書には動物366種、植物・菌類987種の、計1,353種が掲載されています。これは前回（平成24年度版）の1,299種と比べて、54種の増加になります。さらにカテゴリー変更を15種について行い、カワヒバリガイ、ガビチョウ、ハス、ウロコハタケゴケの4種を影響度・緊急度Aにランクアップしました。反面、エジプトガンなど26種の外来鳥類に関しては、県下での定着又は繁殖がなかったためリストから削除しました。

『千葉県の外来生物リスト2020年改訂版』は当センターのウェブサイトから無料でダウンロードできますので御活用ください。

(http://www.bdcchiba.jp/alien/ali_index.html)

(奥田 昌明 千葉県立中央博物館)

いすみ市峰谷地区のため池の外来種駆除をおこないました

千葉県では、ミヤコタナゴ保護増殖事業の一環として、ミヤコタナゴの野生復帰とイシガイ類定着を最終目標とした環境整備のために、ため池の底質の干し上げを計画しています。

令和元年12月20日、その第一段階である外来種の捕獲を、ミヤコタナゴ保全協議会関係者や地元の方のご協力のもと、いすみ市峰谷地区のため池において実施しました。

ため池の底質には厚く泥が堆積しており、腰まではまっぴり身動きがとれなくなる人もいるなど、一歩進むだけでもかなりの体力を要する作業となりました。

午前中は、2～3名でチームを組み、刺し網を5ヶ所に設置しました。午後に引き揚げると、30cm前後のヘラブナ（ゲンゴロウブナの養殖・放流個体）が大量に捕れた他、オオクチバス、コイ、ウシガエル、クサガメなど、引き揚げを待つ間に行った投網での捕獲とあわせて合計185個体の外来種が捕獲されました。

捕獲した外来種は、一頭体ずつ測定後、処分しました。

それぞれの作業にかかる手間と労力は大きなものでしたが、ため池の外来種は一日ではとても捕獲しきれぬ量ではなく、ミヤコタナゴ再導入の日までは、まだまだ遠い道のりですが、まずは完全駆除を目指します。

(辛島 隆子 千葉県生物多様性センター)



いのち 生命のにぎわい調査団員に聞く!! ②

身近な生物の調査を通じて、自然のこと、千葉県の生き物のことを知ってもらうために、そしてどうしたら生物多様性を守っていけるかをみんなで考えるために発足した、千葉県生物多様性センターの県民参加プログラム・生命のにぎわい調査団。

(<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>)

この連載では、これまで調査団を支えてきた団員の皆様にお話を伺ってまいります。第2回に登場していただくのは、13年前の調査団発足の最初期から多数の報告を寄せ続けてこられた、望月政樹さんです。

—— 調査団員になったきっかけは？

一時期、埼玉県の越谷に住んでいたことがあって、越谷で市民参加型の生き物調査というのをやっていたんですね。それに自分も参加していたんですけど、仕事の関係で千葉に戻ってきて、そういうのがないかなと探していたら、調査団がスタートするというタイミングで、即応募したと（注・にぎわい通信の第1号にも、望月さんの投稿した写真が載っています）。

—— 望月さんは昆虫に非常に造詣の深い方ですが、昆虫に興味を持ったきっかけは？

幼稚園に入る前に、祖父からもらった昆虫図鑑ですね。ボロボロになるまで使い倒しました。それから、父の実家が静岡の山の中で、夏休みなるとそっちへ行って……そういうところが昆虫との出会いでしたね。

—— 現在、主に活動していらっしゃるフィールドは？

富津市に住んでいるので、そこを中心として、木更津、君津、袖ヶ浦の、いわゆる上総4市が主ですね。

—— 団員になって良かったことは？

現地研修会などで専門の先生のお話が聞けること、それと、団員同士のつながりができることです。それぞれ得意分野があるので、例えばそれまであまり興味がなかった鳥類にも目が行くようになったり、視野とフィールドが広がりましたね。

—— これまで報告された中で、嬉しかった発見を教えてください。

一番は、アダチアカサシガメですかね（注・2019年報告。アダチアカサシガメは、従来、千葉県レッドリスト動物編において「消息不明・絶滅生物X」にランクされており、2019年の改訂で「最重要保護生物A」に変更された）。それ目当てで探しに行ったわけではなくて、まったく偶然見つけたという。まさか実物にお目にかかれるとは思わなくて興奮しましたね。



望月さん撮影のアダチアカサシガメ

—— ずっと報告を続けてこられて、変化を感じられることはありますか？

ナガサキアゲハやアカボシゴマダラなど、観察を始めた時にはあまり見かけなかったけれど、温暖化の影響なのか人為的な要因なのか、だんだん目につくようになってきた種がありますね。それは実感します。

—— これからの調査団に望むことは？

ホームページで、色々な方の報告が閲覧できるじゃないですか。そこで、自分のあまり得意でない鳥や植物など、画像で見られたらいいですね。「うちの近所にもいたなあ」とか、そういうふうを感じやすくなるんじゃないかと。あと、データが相当数、蓄積されていると思うので、過去の報告も検索できたりするといいですね。

（取材構成・大島 健夫 千葉県生物多様性センター）

千葉県の希少種

シオヤガイ

（千葉県レッドリスト・消息不明・絶滅生物X）



シオヤガイは温暖な内湾干潟の泥底・砂泥礫底に生息する二枚貝で、現在は紀伊半島以南の地域に分布しています。殻は厚く、よく膨らみ、垂三角形で、布目状の模様が大変美しい貝です。食用としても美味で良い出汁が出ますが、多くの地域で個体数が減少しているため、環境省レッドデータブックでは「準絶滅危惧」とされています。

千葉県内では館山湾で貝殻が記録されていますが、確実な生存情報はありません。このため、県レッドデータブックでは「消息不明・絶滅生物」とされています。館山でビーチコーミングをすると、時折シオヤガイの貝殻を拾うことができます。シオヤガイの貝殻はどこからやってきたのでしょうか。館山には、沼サンゴ層と呼ばれる約7000～6000年前の縄文時代の温暖期に堆積した地層（千葉の地層10選にも選ばれました）が分布しており、そこにはシオヤガイの貝殻も含まれています。このため、館山の海岸で拾えるシオヤガイの貝殻は沼サンゴ層から洗い出されたものかもしれません。

沼サンゴ層には約80種類におよぶ造礁性サンゴが含まれ、現在の鹿児島南部から奄美大島に生息するサンゴの種数に匹敵します。シオヤガイや造礁性サンゴなどの温暖な海に生息する生き物たちは、温暖期に黒潮によって北方へ移動し、房総半島まで分布を広げたと考えられています。生き物たちの分布は環境変化によって絶えず変わります。現在でも、西日本にはシオヤガイの健全な個体群がいくつか見られるため、地球温暖化が進めば、千葉県に再び分布を広げ、シオヤガイのおいしいみそ汁を味わえる日が来るかもしれません。シオヤガイが生息できる内湾干潟を残しておきたいものです。

（千葉 友樹 千葉県立中央博物館）



生物多様性ちばニュースレター No.66 令和2年6月30日発行

編集・発行

千葉県生物多様性センター（環境生活部自然保護課）

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <http://www.bdcchiba.jp>

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。